

昭和四年二月號（通卷四十八號）

工事タイムス

— 鐵道 —

《大阪の地下鐵地下商店街》 大阪市の地下高速電車は梅田から難波までの大道路下を走るので梅田の地下停車場は近く起工され昭和六年には完成される筈、目下竣工近くつて来る梅田の阪急ビルディングの西南角の地下は省線の大坂驛の新驛出入や、向側の阪神ビルの連絡やで一時に地下街の壯觀を呈するわけ、從つて此の地下街の兩側に立派な地下商店街を造らうと云ふ案が研究されつゝある（大阪市電氣局）

《親不知附近の津浪と雪》 本年冬季の酷寒と暴風雪は北越方面を荒して遂に鐵道其他海岸村落に多大の損害を與へたが鐵道省は内務省及び地方當局と協力して根本的の防護工事をなす豫定である。鐵道の損害は約15萬圓であるが此の方は雪解の四月頃から復舊本工事に着手の由。

○ロンドンのピカデリーサーカスの新地下鐵道ステーション昨年末竣工設備完全世界第一と稱さる。

— 建築 —

《パリの日本學生會館》 パリの郊外モンスウリ公園の大學生會館の會館が竣工した工費50萬圓鐵骨石造の八階で内部は大講堂、圖書室、大食堂、六十の寢室と日本式の庭園もある、一日金四圓で食事付の宿泊が出来るとの事である。

《好評の京都市營月賦住宅》 京都市設の月賦住宅131戸が昨年末洛北紫竹芝本町に完成した

水道電氣も設備して第一回分拂込金383圓を納付し次回より十六ヶ年に毎月25圓20錢を拂込み土地建物とも借受人の所有となるもので非常な好評を博してゐる、此の平面圖は五十一戸同型のもので如何にも京都趣味の間取りである。

○尾道市 の市營住宅は家賃僅かに金二圓であるが六疊と四疊と雨天作業の土間が廣いので五反田部落民から非常な歓迎をうけてゐる由。

○大阪城 を公園とする工事は本年から着手されるが、天守閣跡には42萬圓を投じて豊公時代の梯を其壇に表はず新天守閣が鐵筋コンクリートで出来る、七層樓か八層樓にするかは學者當局達が協議中（大阪市役所建築課）

《讚岐善通寺の出釋迦寺》 は弘法大師が千百五十年の昔求法で兼て再建工事中であつたが工費30餘萬圓と五ヶ年の日子を費して本堂、庫裏全部竣工した本尊盛んな落成式を舉げる。

○芝浦埋立地 に東京市が四月起工する居場は建設費150萬圓東洋一の設備で敷地一萬餘坪。

○神戸市 の兵庫中三島に工費7百萬圓の中央卸賣市場を建設すべく商工課の藤島技師設計延坪1萬3千餘坪の豫定。

○京都 比叡山上海抜3千尺に明治大帝の御盛徳を記念するため明治節記念塔奉獻會が一大記念塔の建立に着手した塔は伊東忠太博士の設計、高160尺、鐵骨銅張り工費120萬圓本年内竣工。

— 橋梁 —

《東洋第一の長橋吉野川橋》 德島市の北端と板野郡應神村吉野川との間に架せられた全長3,511呎、幅20呎のトラス鋼鐵橋は鴨綠江の鐵橋よりも413呎長い、大正十四年十一月起工、三年十二月十八日開通した、工費百十三萬八千餘圓である、難工事として見らるゝは第十三號、第十四號橋脚を水深38尺の急流中に吊下げ式で施工した事である。（次号詳報）

— 學會及團體 —

《土木學會》 は一月十九日丸ノ内鐵道協會に於て定時總會を開き役員の改選後岡野會長の講演があり續いて晚餐會に移り盛會だった、當日の出席者約百名。

《建築學會》 には十數種の調査委員會が設けられ夫々の事業を進めつゝあるが、最も注目すべきは建築ポケツトヅクの編纂で

ある。此の委員長は内藤多仲博士で、執筆家は官民建築技術家の内特種の経験と研究とを有する約五十人の新進が一種目40頁位を分擔して總計700頁内外のポケットブックを作るものである本年内には出版せらるゝ豫定である。

帝國鐵道協會

第二十六回總會は昭和四年五月廣島市に於て舉行する事に昨年末の理事會で決定した。

土木業協會

昨年十一月吳出身の業者多額納稅議員松本勝太郎氏の歐米視察談話會を開催した。

建築業協會

關東支部十日會の名に於て一月二十一日午後五時例會と新年宴を兼ね材料時價表の議事等を可決した會長は横河民輔博士、會場は日本橋區檜物町大和。

東京土木建築業組合

一月二十三日午後五時日本橋區矢ノ倉福井樓で新年宴會懇親會を開催した發起人は會長鹿島精一氏外十一人出席者多數で盛會を極めた。

日本工人俱樂部

は一月二十二日丸ノ内の同事務所に於て定時總會を開き評議員二十六名の改選を舉行した。

交通協會

では一月十日關係當局に對し東京市内の交通頻繁なる須田町其他の六交叉點に横斷歩道を設くる建議案を呈出した

○土木學會誌 從來隔月發行の同誌は昭和四年より月刊となし毎月十五日發行に奮發した。

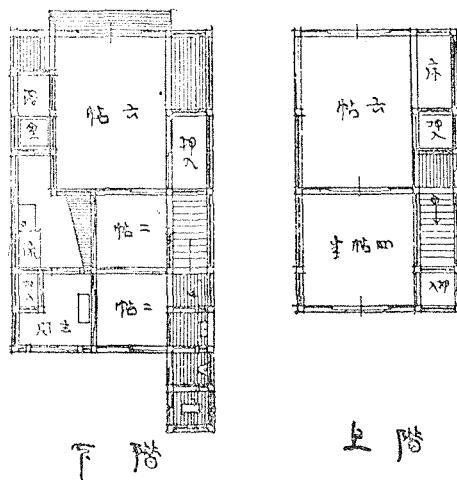
○混擬土調查會 土木學會が主催せる同會は其會の經過が我國工事技術の進退に大に影響するものとして朝野の注目する處であるが、昨年九月二十五日第一回幹事會を開催して以來會務大に進行し、最近では本年一月十日第六回幹事會を丸ノ内の時事ビル内の土木學會にて開催し、配合に關する條項の審議に及んだ、當日の出席者は大河戸委員長、岡部三郎、黒河内四郎、藤井眞透、野口虎之助、平山復二郎、三浦七郎、那須章彌氏など出席した。

○用語調查會 土木工學に關する用語の統一をなすための調査會は土木學會にて昨年十月十九日第一回幹事會を開き中山秀三郎博士を委員長とし幹事長に中川吉造博士を推して會務の進行を見つゝあるが、最近では一月十日第三回幹事會を土木學會で開催するに至った。

— 人 事 —

○ワツル博士 は明治十五年から四年間東京大學

京都市營住宅平面圖



に初めて橋梁學を講義した權威者で同時に在米日本學生の恩人であるが今回支那民國政府に招かれて渡支するに際し一月二十一日リンカーン號にて横濱に寄港されたので我國工學界の先輩達多數が當日横濱に出張歡迎された。

○杉浦宗三郎氏表彰會 昨年十二月十五日帝國鐵道協會主催の同會は二百餘名の會員出席盛大に舉行れた、杉浦博士は明治三十二年日本鐵道會社奉職當時から今日まで實に三十年間鐵道協會の編輯委員及び委員長として盡力された功勞歎からず今回表彰されるに至った。

○田中豊 鐵道省官房研究所の同技師は從來等閑視されてゐた土木建築の基本問題たる泥の性質研究に着手する事になり先づ丹那トンネルの泥の研究を初める由である、我國で斯る基本問題の研究が起される事は喜びに耐へない事で斯界は非常な注意と賛意を表してゐる。

— 雜 報 —

岐阜縣遅川切落問題の大騒動 岐阜市と大垣市との間に名もなき小川の遅川といふのがある遅川は長良川と揖斐川の中間に存つて國道堤の上手から長良川に流入してゐる。此の遅川を國道堤を貫いて下流に改修すると堤下の農民が出水の際に困ると云ふのが騒動の原因である。昨年十二月下旬から安八郡水害豫防組合事務所なるものが主となり陳情運動をしてをつたのが遂に本年一月初旬各村長の總辭職となり、一月八日名森村にて農民群衆は四千數百名に對して警官と相對して數名の負傷者が出了た